

# プロジェクトワーク

## —自分が伸ばしたい能力を伸ばすには—

数原 麗香 (ボーフム大学)

reiko.suhara@rub.de

### 【要旨】

ドイツ、ボーフム大学日本語上級コースにおいて参加者を「読む」「聞く」「書く」「話す」の4つのグループに分け、それぞれの能力を伸ばすためのプロジェクトワークを実施した。実際にプロジェクトを実施したのは3週間ほどだったが、学生が毎週提出した報告書や最後の成果発表から、彼らがこのプロジェクトワークによって何か得たものがあったということがわかった。本稿では主に各グループが行ったプロジェクト内容およびその結果を紹介する。

### 1. プロジェクトワークの背景

筆者が担当するのはボーフム大学における日本学対象<sup>1</sup>の日本語上級コース(5~6学期目)の中の「作文と会話」という週1回90分の授業である。2015/16年冬学期(5学期)終了時にアンケートを行った結果、もっと「読む」「聞く」「書く」「話す」の四技能を伸ばしたいということがわかった。それぞれが伸ばしたい能力は違うため、全員の希望に沿うのは難しいと思われた。また来学期(6学期)には「オンラインで日本の大学生と交流してみたい」という意見も出た。

さらにこれは筆者の個人的な事情だが、このコースでは教科書がなく、担当教員が自ら毎時間授業で使用するプリントを4-5ページ作成しなければならない。また私自身上級コースの担当が初めてであり、自分の教材やノウハウの蓄積がないため、とにかく授業準備に時間がかかりかなりの負担であった。

また授業は教師ばかりが学習内容や学習方法を決めるのではなく、学習者といっしょに作るものだと思っているし、そうしたいと考えている。「自律学習」や「アクティブ・ラーニング」などというキーワードをよく目にするようになって久しいが、そこでもう少し授業を学生に任せてみて、何をどう勉強するかなど学生自身で決めてもらえないだろうかと考えた。

以上の3つの理由から筆者が提案したのが、各個人が伸ばしたい能力を伸ばすための「プロジェクトワーク」である。以下にその内容を述べる。

### 2. プロジェクトワークの準備

#### 2.1 はじめに

教師側からまず2016年夏学期最初の授業で、これから5週間にかけてプロジェクトワークをすることを発表した。併せて先学期末に行ったアンケート結果を提示し、なぜプロジェクトワークをするこ

---

<sup>1</sup> 日本語コースの詳細は、半田(2015) pp.65-66を参照。

とにしたのかについても述べた。その他、学生に提示したプロジェクトワークの目標やプロジェクトを決めるにあたっての条件などを表1にまとめる。

**表1 プロジェクトワーク要項**

目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自分が伸ばしたい能力（読む・聞く・書く・話す）を伸ばす</li> <li>2. グループで協力する</li> </ol>
プロジェクトの条件	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 一人ではできないが、グループでならできるもの、グループであることによって大きな効果が得られるもの</li> <li>2. 必ずどこかで「日本人との交流」を入れること</li> </ol>
評 価	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 参加度評価（25 %） <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業後の報告書（全4回）</li> <li>・自分のプレゼンテーションビデオを見て自己評価</li> <li>・他のグループのプレゼンテーションを評価</li> </ul> </li> <li>2. 口頭および文章表現評価（75 %） <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループプレゼンテーション（口頭表現）</li> <li>・プレゼンテーションの文章化（文章表現）</li> </ul> </li> </ol>

なお報告書などの提出・返却はすべて Moodle<sup>2</sup>上で行った。他のグループのプレゼンテーション評価は Moodle のアンケート機能を利用し、オンライン上で記入してもらい集計した。学生同士のやりとりにも Moodle のグループ機能を用い、グループ内でやりとりしやすいようにした。また Facebook を利用して連絡を取り合っているグループもいた。

## 2. 2 教師のねらい

教師のねらいは主に次の3点である。①学生自身でプロジェクトの内容を決定しそれを実施することにより、つい受け身になりがちな授業を自主的に学んでいるように感じられるものにし、②卒業後、日本語コースがなくなってから自分達がどうやって日本語を学習していけばいいかを考える場を設け、③プロジェクトワークを通じて日本語以外のスキル（例えば、オンラインアンケート作成やウィキペディア編集方法など）も学ぶことを期待した。

## 2. 3 グループ分け

コースが始まる前に参加者に留学経験や自分が伸ばしたい日本語の能力（読む・聞く・書く・話す）、またどんな作業（「調査する」や「コンピューターを使う」）が得意かなどを聞くためのアンケートを行った。これらを参考にグループ分けを行った<sup>3</sup>。「伸ばしたい能力」が同じ人を1つのグループに集め、能力別に4つのグループを作った。コース参加者28人のうち3ヵ月以上の留学経験者は12人いたが、これらがばらばらになるように配慮した。アンケートでは、伸ばしたい日本語能力を第1希望と第2希望の2つ挙げてもらったが、第1希望でグループ分けを行った際、「話す」グループの人数が極端に多くなったため、第1希望のグループから第2希望または他のグループへ移ってもらった（表2）。ま

<sup>2</sup> このコースでは日本学の提供する他のコースと同様にオンライン学習管理システム Moodle を利用した。

<sup>3</sup> 新井・坂倉（2013）pp.36-38

たアンケートで「コミュニケーションが得意（13人）」を挙げた人が必ずグループ内に1人いるように配置し、グループ内でコミュニケーションがうまく取れるように配慮した。またどうしてこのようなグループ分けになったかを学生に提示し、皆に納得してもらえるようにした。

**表2 グループ分け**

グループ	第1希望	第2希望	グループ分け終了後
「読む」	4人	5人	7人（5人）
「聞く」	6人	9人	7人（4人）
「書く」	4人	10人	6人（2人）
「話す」	14人	4人	8人（1人）
計	28人	28人	28人（12人）

（ ）の人数は3カ月以上の日本での留学経験者

#### 2.4 プロジェクトワークの流れ

表3にプロジェクトワークの流れを示す。グループ活動中は教師の指導は全くなく、学生達だけで活動した。それぞれがどんな作業をしているのかは、授業後に提出される報告書<sup>4</sup>を読むことにより知ることができた。また、その報告書には助言した方がいいと思われた場合はアドバイスを記入してMoodle上ですぐ返却した。

**表3 プロジェクトワークの流れ**

	授業時間内	授業時間外
第1週	プロジェクト決定・計画	個人作業
第2週	グループ活動	個人作業
第3週	グループ活動	個人作業
第4週	グループ活動	個人作業
第5週	プロジェクト成果発表	

#### 2.5 プロジェクトの決定

グループ分けを発表しプロジェクトの流れを説明した後、早速各グループに分かれて具体的なプロジェクト内容を決定するためのブレインストーミングを行った。手順は、①伸ばしたい能力を伸ばすためにどんなことをすればいいかアイデアをどんどん付箋に書いていき、②似ているものをグルーピング、③それを見ながらどんなプロジェクトの可能性があるか考え、④プロジェクトを決定した。各グループのプロジェクトを表4に示す。なお、具体的な内容は次章で紹介する。

**表4 各グループのプロジェクト**

グループ	プロジェクト
「読む」	いろいろなジャンルの文章を読む
「聞く」	いろいろなジャンルのビデオを見る

<sup>4</sup> 参考資料として本稿の最後に掲載

「書く」	ウィキペディアに「ドイツの祭りとイベント」の記事を書く
「話す」	毎週グループで決めたテーマについて各自家で調べてきて、次の授業でそれについて話す

### 3. プロジェクト内容

#### 3. 1 「読む」グループ

「読む」グループは毎週様々なジャンルの文章を読み、次の授業で各自何を讀んだか紹介したり、読んでみた感想、そのジャンルにおける文章の特徴などについて議論していた。表 5 にスケジュールを示す。

表 5 「読む」グループのスケジュール

	授業時間内	授業時間外
第 1 週	プロジェクト決定・計画	学術的な文章や新聞記事を読む
第 2 週	グループ内で意見交換	文学作品を読む
第 3 週	グループ内で意見交換	ブログを読む
第 4 週	グループ内で意見交換・発表準備	発表準備
第 5 週	プロジェクト成果発表	

印象的だったのは、一人の学生がきれいな自作ノートを作っていたことである。読んでわからなかった単語を調べ単語リストを作りノートに貼り付けるとともに、気づいたことなども書き込んでいた。そしてその方法をグループ内で紹介し、他の学生もその方法を取り入れていた。

また、グループ内で意見交換をする際、はじめはドイツ語で行っていたが、報告書に「もっと日本語で話したほうがいい」など書いている学生がみられ、そのあと自分たちで日本語で話すようになっていった。

プロジェクトワークの条件として「必ずどこかに日本人との交流を入れること」を盛り込んだが、このグループでは日本人の友人がいる学生は讀んだ文章について意見交換し、日本人も自分達と同じ感想を持っているのか確認したり、日本人の友人がいない場合はプロジェクト内容や文章を讀んだ感想を文章添削サイト<sup>5</sup>に投稿し、日本人母語話者に添削してもらったりした。

#### 3. 2 「聞く」グループ

「聞く」グループのプロジェクトは毎週様々なジャンルのビデオを見て聞き取り能力を伸ばすことだった。授業内の話し合いの時に今週視聴するビデオを決め、自宅で視聴し、その難易度や感想を自分たちで作成したアンケート用紙に回答し、次の授業で話し合っていた。表 6 に主なスケジュールを示す。

表 6 「聞く」グループのスケジュール

	授業時間内	授業時間外
第 1 週	プロジェクト決定・計画	JLPT, アンケート回答

<sup>5</sup> このウェブサイト「Lang-8」では書いた文章を母語話者が添削してくれる (<http://lang-8.com/>)。

第2週	先週のビデオ感想, 今週のビデオ選択	トークショー, アンケート回答
第3週	先週のビデオ感想, 今週のビデオ選択	アニメ, アンケート回答
第4週	先週のビデオ感想, 今週のビデオ選択, 発表準備	YouTube, 学習用ビデオ, アンケート回答, 発表準備
第5週	プロジェクト成果発表	

聞き取り能力には個人差があるため、果たして皆が同じビデオを見てそれぞれの聞く能力を伸ばせるかどうかの問題である。「日本人との交流」として、このグループは日本人を自宅に招いて日本の映画を皆で鑑賞し、わからないところなどをその日本人に聞いたりしていた。

### 3.3 「書く」グループ

「書く」グループのプロジェクトは「ウィキペディアにドイツの祭りとイベントの記事を書く」である。主なスケジュールを表7に、各グループメンバーが書いた記事を表8に示す。

表7 「書く」グループのスケジュール

	授業時間内	授業時間外
第1週	プロジェクト決定・計画	各自テーマを探す
第2週	記事を書く	調査, 記事を書く
第3週	記事を書く	調査, 記事を書く
第4週	記事を書く	調査, 記事を書く, 発表準備
第5週	プロジェクト成果発表	

表8 それぞれが書いた記事

<ul style="list-style-type: none"> <li>・中世のマーケット</li> <li>・ドイツの収穫祭</li> <li>・東アジアの祭り</li> <li>・ドイツのカーニバル</li> <li>・東京ドイツフェスティバル</li> <li>・ゲームズ・コム</li> </ul>
--

このグループはまだ何語でも書かれていない、全く新しい記事を一から書くためのテーマ探しに難航していた。書こうと思ったものがすでにウィキペディアに存在するものが多かったためである。授業中でも各自自分の記事を書いていたが、お互いにわからないところを教え合ったりしていた。「日本人との交流」として、日本人の友人に書いた文章を添削してもらったり、このグループでも文章添削サイトを利用して、日本語母語話者に書いた文章を直してもらっていた。またスカイプを利用している者もいた。最後に実際にウィキペディアに投稿した。

### 3.4 「話す」グループ

コース前アンケートでは伸ばしたい能力で最も多かったのが「話す」だった。グループメンバー8人中、日本での留学経験者は1人だけで他のグループの中で一番少なかった(表2)。このグループで

は授業で話すテーマについて決定し、それについてタンデムパートナー<sup>6</sup>と話したり、またタンデムパートナーがいない場合はそのテーマについて家で調べ、次の授業でその調べた内容についてそれぞれが発表し、意見交換を行っていた。グループの人数が最も多かったため、一人一人がたくさん話せるように2つの小グループに分かれて話し合いをすることも見られた。またコースで用いているのは大きい教室だったが、話に集中するため別の空いている教室を使わせてほしいと教師に頼んできたり、授業中90分はずっと日本語で話すようにしたり、自分たちで工夫している様子が見られた。表9に主なスケジュールを示す。

**表9 「話す」グループのスケジュール**

	授業時間内	授業時間外
第1週	プロジェクト決定・計画	テーマを探す
第2週	今週のテーマ決定 「日本に住んでいる外国人」	テーマについて調べる
第3週	調べたことについて話す 今週のテーマ「日本と欧米での流行」	テーマについて調べる
第4週	調べたことについて話す	発表準備
第5週	プロジェクト成果発表	

このグループで一番問題だったのが「日本人との交流をどうするか」だった。せっかくの機会なので、交流のある日本の大学にお願いして、日本の学生とビデオチャットなどで話す機会を設けようとしたのだが、急なお願いということもあり残念ながら今回は実現することができなかった。その大学とのやりとりのためにプロジェクトの最初もたつてしまった。日本人の友人がいた学生は、ビデオチャットでテーマについて意見交換をしていた。また学生の中には自分の声を録音し、毎日自分にボイスメッセージを送るというおもしろい試みをしている学生もいた。

#### 4. プロジェクト結果

プロジェクトワーク5週目には全4グループのうち3グループがプレゼンテーションソフトを用いて成果発表を行った。この時日本人ビジター1人に来てもらってコメントをしてもらった。ここでは、各グループが発表した内容を紹介する。

##### 4.1 「読む」グループ

###### (1) うまくいったこと

- ・皆でいろいろなことを決定し、積極的に参加した。
- ・皆が自分の考えを聞き手に配慮しながら論議した。
- ・Moodleのグループ・フォーラムを利用し、グループ内のやりとりがスムーズに行えた。

###### (2) うまくいかなかったこと

- ・グループで一人しか言語学を専攻している人がいなかったため、言語学的な分析や議論ができなかった。

<sup>6</sup> 外国語をお互いに教え合う相手。主に自分が勉強している言語の母語話者で行う。

(3) プロジェクトの結果わかったこと

- ・学術的な文章や新聞記事 : [+]文法は簡単  
[-]新しい語彙が多く、統語論的にも難しい場合がある
- ・文学（小説・ライトノベル） : [+]専門用語が少なく、文章によってはふりがながついており読みやすかった  
[-]文章が長く、ひらがなが多く使われていたため少し読みにくかった
- ・ブログ : 話し言葉も書き言葉も両方使われていることに気付いた  
一番読みやすかった

(4) プロジェクトで気づいたこと

- ・「生の日本語」を読むには3週間のプロジェクトは確かに短い。短い文章を選んだ場合はこの期間は妥当だが、本だと読むのが難しい。
- ・短期間でも何も得なかったわけではない。様々なジャンルの文章の特徴を知ることができたり、皆と議論することにより読解能力も伸びた。
- ・「読む」能力だけでなく、「話す」能力を伸ばすこともできた。

(5) 日本人との交流について

- ・「読む」プロジェクトにおいて、日本人と交流するのは難しい。
- ・日本人にとっても文学作品は学術的な文章より読みにくい。それはニュースのような事実だけではなく、歴史や文化などについても書かれており、それが理解できなければ作品全体を理解するのが難しくなる。
- ・ブログは読みやすいと言ったが、一番読みにくいという意見もあった。それはブログは各自自分勝手に書いており、外国人にとって考え方がわかりにくいからだ。
- ・文章添削サイトで自分が書いた文章を日本人に直してもらえたのはすばらしかったが、その日本人は自分の意見を書かなかったので、どんな意見を持っているのか知ることができなかった。
- ・文章添削サイトはおもしろかったので、これからも使っていきたい。

## 4. 2 「聞く」グループ

(1) うまくいったこと

- ・ビデオで特に難しかったところなどをディスカッションしたり、お互いに新しい聞き取り練習方法を勧めたりするいい機会だった。これからもプロジェクトワークで使っていた練習方法を使って聞き取る能力を高めたい。

(2) うまくいかなかったこと

- ・簡単なビデオから始めて難易度を上げていくつもりだったが、グループ内での聴解能力の差が大きそうだったため、かなり悩んで選んだ最初の JLPT のビデオが結局一番難しかった。だが計画通りにいかななくても聴解能力が上がったと思っているメンバーも多いた。

(3) プロジェクトの結果わかったこと

- ・JLPT<sup>7</sup> : このビデオが一番簡単だと思って一番最初のビデオとしてこれを選

---

<sup>7</sup> 日本語能力試験の聴解練習用ビデオ (N2 レベル)

んだが、実は一番難しかった。しかしこの中にはたくさん覚えたい言葉（「だからこそ～」、「後日」など）が出てきたのでぜひ覚えたい。

- ・トークショー<sup>8</sup> : 「お互いの嫌いなものを当てる」という場面はわかりやすかったが、くだけた話し言葉が多く難しかった。
- ・アニメ<sup>9</sup> : 日本の子供たちが見ているアニメを見てみたかったのでこれを選んだ。
- ・学習用ビデオ/YouTube<sup>10</sup> : さらに新たな種類のビデオを試すために選んだ。それぞれの聴解レベルに合わせて、いろいろな難易度のものを選んでおいた。エリンのビデオには字幕がついているので、理解度がチェックできた。YouTube ビデオの理解度は70-80%だった。

#### (4) プロジェクトで気づいたこと

- ・ビデオのジャンルによって難易度が変わる。
- ・方言はまだあまり理解できないが、映画は絵があるので全部聞き取れなくても楽しかった。

#### (5) 日本人との交流について

- ・映画の内容で難しいところは日本人と話し合うことで理解できた。
- ・日本人といっしょに映画を見るといった集まりをまたやってみたい。

### 4. 3 「書く」グループ

#### (1) うまくいったこと

- ・お互いに手伝ったので、グループワークは大体うまくいった。
- ・自分が興味のあるテーマについて書くのは楽しかった。

#### (2) うまくいかなかったこと

- ・たくさんアイデアがありすぎて、書くテーマを選ぶのは難しかった。
- ・初めて日本語でプロジェクトワークをしたので流れがよくわからず、困った時がよくあった。

#### (3) プロジェクトの結果わかったこと

・ -

#### (4) プロジェクトで気づいたこと

- ・このプロジェクトワークはいい練習だった。例えば書いている時よく単語を辞書で調べなければいけなかったが、どれが一番ふさわしい言葉かわからなかった。そんな時みんなでアドバイスし合ったりして、いい勉強になった。

#### (5) 日本人との交流について

- ・文章添削サイトはとても簡単で便利。書いた文章をアップロードしたら数時間後に直してもらえた。直してくれた日本人とメッセージを送りあったりして、とてもいい勉強になった。このサイトは学生も大人も利用しているので、いろいろな人とやりとりできた。

---

<sup>8</sup> 自分たちで「食わず嫌い王決定戦」という番組を選んでみた。

<sup>9</sup> 「ちびまる子ちゃん」の2つの話を見ていた。

<sup>10</sup> まず、日本語学習用ビデオ WEB 版 「エリンが挑戦！にほんごできます。」(<http://www.erin.ne.jp/>)の第1課と第25課を見て、それからある日本人が自分の故郷を紹介している YouTube ビデオを見ていた。



#### 4. 4 「話す」グループ

##### (1) うまくいったこと

- ・みんなが日本語を使ったので、段々話しやすくなった。
- ・日本について話した際、自分の経験や思い出も伝えられた。

##### (2) うまくいかなかったこと

- ・話したいことをまだ全部日本語で表すことができないので、よくドイツ語で話してしまった。
- ・時々知っているはずの単語を思い出すことができなかった。
- ・話す時、文法にあまり気をつけていなかった。
- ・ドイツ語の表現をそのまま日本語に言い換えてしまった。
- ・正確な発音が時々できなかった。

##### (3) プロジェクトの結果わかったこと

- ・－

##### (4) プロジェクトで気づいたこと

- ・毎時間のディスカッションに日本人がいなかったので、躊躇せずに話せた。
- ・毎週特定のテーマについて皆準備してきたので、議論ができた。
- ・語学力を磨くという目標ができた。
- ・プロジェクトのための準備があまりできなかったのに、プロジェクトワークをするのは学期の始めではなく、もっと後の方がいい。
- ・短期間すぎた。
- ・テーマを探すのに手間取った。
- ・具体的なテーマを設定したほうがいい。

##### (5) 日本人との交流について

- ・メンバーの中で日本人と直接スカイプなどを使って議論できたのは1人だけだったが、このメンバーを通して日本人の意見を知ることができた。

#### 5. 活動後のアンケート結果

プロジェクトワーク終了後に Moodle 上でアンケートを実施した。参加者 28 人中、回答が得られたのは 9 人だけだったが、その結果を図 1 に示す。

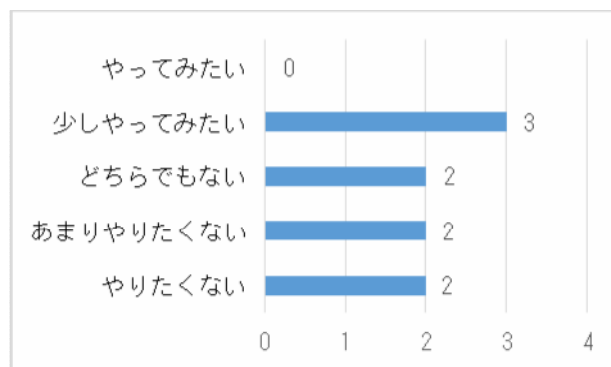


図1 プロジェクトワークをもう一度やってみたいか

成果発表の中ではプロジェクトワークに対し肯定的な意見が多く述べられていたが、ここでは「あ

「やりたくない」, 「やりたくない」という回答が約半分を占めた。「やりたくない」理由として挙げたものをいくつかここで紹介する(原文ママ)。

- ・他の人と働くのは少し困るだと思う。色々な意見があるので、自分の意見と目標が小さいになるかもしれない。
- ・意欲的なグループメンバーと一緒に働くことができたら素晴らしい結果を達成できるが、ナマケモノとグループをできてしまったら、成績も悪くなるかもしれない。
- ・プロジェクトワークとは、集団討議をしたりすることによってチームワーク能力を高める確かにいい機会ですし、面白くないわけでもないのですが、私自身にはグループワークが上手になるよりもっと大切なのは、独力でも抜群のアイデアを出して実現できるようになることなのです。

現在、ドイツの学校をはじめ、大学や会社までチームワーク能力は最も大事なものとされて、グループ練習に夢中になる傾向があるみたいで。そのことが原因で、問題がどんなに小さくても、一人で全く解決を考えられなくて、ずっとグループワークの効果を信じてしまいがちな人が増える一方で、他人の手助けをあまり期待せずに、独立しても成功できる人がすごく少なくなってしまうかなと思うのですが。

ここで見られるのは、グループワークをすることによる不安、例えば自分の能力が存分に発揮されないもしくは能力を高められないのではないかといったものである。このように答えているのは非常によくできる学生だと思われる。グループで学ぶことにより、様々な人とのディスカッションを重ね、他者の視点を知り、それを通じて知識や考え方の幅を広げ、自分に独自の洞察力や感性に気づくことができる機会が得られる<sup>11</sup>と思われるが、プロジェクトワークに参加した誰もがこれを経験できるようにコーディネートするのが今後の課題である。

## 6. まとめ

実際プロジェクトワークを行ったのは賞味3週間ほどしかなく、この短期間にそれぞれの能力を伸ばすのは難しい。これは実施する前からわかっていたことだったが、「このままプロジェクトを続けたらもっとうまくなるのではないか」という報告書のコメントからもわかるように、学生自身何らかの気づきが得られたと思われる。この学期で日本語の授業がなくなるが、このプロジェクトワークでの活動をもとに、これからも自分で工夫しながら日本語学習を続けていってほしい。

またウィキペディアでの記事の編集や、自分で書いた日本語を文章添削サイトで直してもらった経験は、大学を卒業した後にも何か役に立つことがあるかもしれない。日本語を一つの「道具」として使えるようにし、いろいろな能力を身につけ、生き抜く力をつけてほしい。

## 参考文献

- 新井和広・坂倉杏介(2013)『アカデミック・スキルズ グループ学習入門—学びあう場づくりの技法』慶應義塾大学教養研究センター
- 半田佳奈子(2015)「就職をテーマにした上級コースでの実践活動—日本学対象の日本語コースにおいて—」『日本語教育連絡会議(2015) 論文集』Vol.28, 64-73.

(資料：プロジェクトワーク報告書例)

---

<sup>11</sup>新井・坂倉(2013) p.11

報告書4

日付	2016年 月 日
グループ	<input type="checkbox"/> 読む <input type="checkbox"/> 聞く <input type="checkbox"/> 書く <input type="checkbox"/> 話す
名前	
自分が今週の授業までに しなければならなかったこと	
→それはどのくらいできたか	できなかった← <input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 5 →できた
→それはどうしてか	
グループワークで うまくいったこと	
グループワークで うまくいかなかったこと	
グループワークで 自分がしたこと	
自分のグループワークへの 参加度	参加不足← <input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 5 →よく参加
自分が来週の授業までに すること	
その他気づいたことなど	

教師からのフィードバック（ここには何も書かないでください！）